

H26

平成26年度補正
ものづくり・商業・
サービス革新補助金

日本海酒造株式会社

■事業

海外展開に向けた製造工程の変革
および設備導入による生産性向上

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

小型対応清酒ボトリング設備

☒ものづくり技術 ☐革新的サービス

製造工程自動化で生産性向上
海外展開のためのスピード出荷を実現

地元消費の低迷から 活路を県外、海外へと求める

創業1888(明治21)年の日本海酒造株式会社。かつては酒造りが盛んだった浜田地域だが、現在市内唯一の造り酒屋。水澄みの里と呼ばれる三隅町に位置し、酒造りに大切な水は三隅川の伏流水を使用、酒米は市内弥栄町の農家と契約栽培している。品質と味にこだわった伝統の技術は国税庁新酒鑑評会(現在は独立行政法人酒類総合研究所主催)で金賞を22回受賞している。

他のアルコール飲料との競合で日本酒市場は1973年頃をピークに減少傾向にあり、県内での販売を中心にしてきた同社も近年は人口減少と共に売り上げが下がってきていた。そこで、関東や関西など県外への販路開拓に続いて20年前からアメリカへの輸出を手掛けてきた。さらにシンガポールをはじめとした東南アジア市場向けの引き合いもあり、「海外需要への対応が事業継続にとって取り組むべき課題のひとつで、今後は極めて重要になる」と藤田真路社長は期待をかける。

しかし、海外への販路開拓には一部で短期納期という課題をクリアしなければならない。オーダーによっては受注から納品するまでの猶予が10日以内。だが、タンクからの瓶詰作業は半手作業なため時間がかかり、短期間での大量出荷は難しかった。そこで、問題を解決するために瓶詰工程の大変革に取り掛かった。

瓶詰工程の自動化でスピード化、省力化

貯蔵タンクから瓶詰までの従来の工程は、①酒をフィルタープレス型濾過機で濾過する。②半手動で瓶に酒を充填。③手作業でキャップ被せや巻締めをする。

こうした工程では蔵出しから出荷まで7日かかるため、ものづくり補助事業で、自動充填機、自動キャッパーを導入。さらに三隅川の氾濫による水害対策としてこれまで充填作業やキャッパーは2階で行っていたが、機械の導入で瓶詰工程を1階に集めてライン化し、自動化した。これにより7人がかりで充填作業をしていたのが4人でこなせるようになり、作業のスピードも1.5～2倍にアップした。

また、中空糸濾過機を使用することで濾過作業時間も短縮され、その結果、受注して4日後には出荷が可能になった。



代表取締役 藤田真路



1 自動打栓機
2 純米大吟醸「水澄みの里」
3 シリーズ純米吟醸「渦」
4 自動充填機



コロナ禍でも海外とのつながりは継続

主に日本酒類販売(株)などを通じて、アジアやアメリカへの開拓を模索、藤田社長自身も現地へ出掛け、関係強化を図ってきた。アメリカを皮切りに、中国、台湾、マレーシア、シンガポール、ベトナム、スイス、ニュージーランドなど輸出先は11カ国にまで広がった。海外向けも意識しながら「純米原酒超辛口」や「渦シリーズ」など商品を次々と開発。2017年からフランスで開催されている日本酒コンクール「KURA MASTER」では開催当初から受賞を続けており、19、20年には純米大吟醸「水澄みの里」がプラチナ賞を連続受賞した。

しかし、順調な伸びをみせてきた輸出も新型コロナウイルス発生で飲食業は世界的にダメージを受け、この1年でアルコール類の需要は激減。「それでも輸出先各国からはオーダーがコンスタントに入っており、ありがたい。コロナ禍に何とか耐えるしかない」と藤田社長。「人と人との心をつなぐ酒」(同社 motto)が海外との絆を確かなものになっている。

■Company Data

日本海酒造株式会社



日本海酒造

代表者名：藤田真路
設立年：1888(明治21)年
資本金：22,000千円
従業員数：7名
主たる業種：酒類製造業
本社：〒699-3224 浜田市三隅町湊浦80番地
電話：0855-32-1221
FAX：0855-32-0979
URL：<https://www.kan-nihonkai.com>